

2020年に向けた東京都の取組

一大会後のレガシーを見据えて一

この冊子には、音声コード が右ページ右下に印刷さ れています。専用の読み 上げ装置やスマートフォ ンアプリ等で読み取ると、 記録されている情報を音 声で聞くことができます。























「2020年に向けた東京都の取組 一大会後のレガシーを見据えて一」の 策定にあたって

2020年、東京は2度目のオリンピック・パラリンピックを迎えます。

1964年大会は戦後の復興を世界に示し、その後の高度経済成長を導くものでありました。そして、2020年は成熟した大都市で開催する大会として、経済面での発展はもとより、ゆとりある真に豊かな暮らしの実現など、成熟社会にふさわしいレガシーを残していくことが求められております。そして大会を、東京と日本のさらなる発展につなげていかなければなりません。

こうした考えのもと、2020年のその先を見据え、価値あるレガシーを残すための取組を、「2020年に向けた東京都の取組ー大会後のレガシーを見据えて一」として取りまとめました。

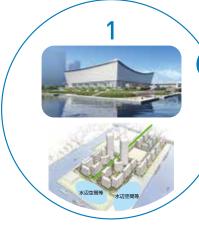
競技施設や選手村をはじめ、文化、教育、環境、経済、被災地の復興など、大会後のレガシーを見据えた8つのテーマについて取組を明らかにしております。また、2020年大会の前年には、アジアで初のラグビーワールドカップが日本で開催されます。この二つの大会を一体のものとして捉え、取組を着実に進めるとともに、今後も不断に取組を進化させていきます。

また、東京は世界で初めて2回目のパラリンピックを開催する都市となります。パラリンピックには、ノーマライゼーションの定着など社会に変革をもたらす力があり、その成功なくして2020年大会の成功はありません。大会に向け、都市のバリアフリー化や心のバリアフリーの浸透など、ハード・ソフト両面での取組を全力で進め、障害の有無にかかわらず誰もが暮らしやすい東京をつくりあげてまいります。

さらに、大会を通じて、東京、日本の多彩な文化、水素 エネルギーをはじめとした高度なテクノロジーや中小企 業の優れた技術、食の魅力などを、東京が日本のショー ウィンドウとして世界に発信し、日本全体の発展に貢献し ていきます。

大会の成功の鍵は、多くの都民の皆様が大会に関わり、 自分たちの大会だと感じていただくことです。本書で 2020年に向けた取組を広く知って いただき、皆様と力を合わせて史上 最高のオリンピック・パラリンピック を実現し、東京、そして日本に価値あ るレガシーを残してまいります。

8つのテーマ



競技施設や選手村のレガシーを 都民の貴重な財産として 未来に引き継ぎます



大会を機に、スポーツが日常生活に とけ込み、誰もがいきいきと 豊かに暮らせる東京を実現します

р7

都民とともに 大会を創りあげ、 かけがえのない感動と 記憶を残します





大会を文化の祭典としても成功させ、 「世界一の文化都市東京」を実現します



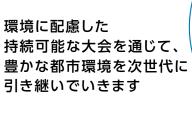


オリンピック・パラリンピック教育を 通じた人材育成と、多様性を 尊重する共生社会づくりを進めます

6



大会による経済効果を 最大限に生かし、 東京、そして日本の経済を 活性化させます





被災地との絆を 次代に引き継ぎ、 大会を通じて世界の人々に 感謝を伝えます











目的

東京2020大会後のレガシーを見据えた東京都の取組を明らかにすることにより

- ●大会を通じて価値あるレガシーを残していくための取組を、 2020年に向けて着実に進めていきます
- → 大会に向けた東京都の取組を明らかにすることにより、都民の皆様が 大会に関わりを持ち、参加していただくきっかけづくりとします

3つの視点

東京1020大会を起爆剤として、成熟都市・東京をさらに発展させ、 ゆとりある真に豊かな都民生活を実現します

□ 本へ オールジャパンで大会を成功に導き、経済の活性化や 被災地復興の後押しなど、大会の効果を日本全国へ波及させます。

そして世界に向けて

水素社会の実現に向けた先進的な取組や、東京、日本の高度なテクノロジー、東京のブランド力などを、東京が日本のショーウィンドウとして世界に向けて発信します。さらに、復興へ歩む被災地の姿を世界に発信し、支援への感謝を伝えるなど、大会を機に世界との交流をさらに深めていきます



2回目のパラリンピック

パラリンピックを通じて 誰もが暮らしやすい東京を実現します

- ●東京は、世界で初めて2回目のパラリンピックを開催する都市として、障害のある人もない人も互いに尊重し、支えあう共生社会を実現するなど、大会で確かなレガシーを残していかなくてはなりません
- ●パラリンピックは、障害者がスポーツに親しむきっかけとなるだけでなく、 ノーマライゼーションの考え方を社会に定着させ、障害者がその能力を生かし、 自らの行動を決し、そして夢を追い続けることができる社会づくりにつながる など、社会に変革をもたらす力があります
- ●このような大きな力を持つパラリンピックの成功がなければ、東京2020 大会の成功はありません
- ●大会の成功に向け、都市のバリアフリー化や心のバリアフリーの浸透など、 ハード・ソフト両面での取組を全力で進め、障害の有無にかかわらず誰もが 暮らしやすい東京をつくりあげていきます













大会を契機に 東京のスポーツ拠点を拡充します



○競技施設を有効に活用し、都民のスポーツの場を拡大

- ・東京都が新たに整備する競技施設(新規恒久施設等)は、確実な進行管理、適切な情報公開により着実に整備していきます。
- ・新規恒久施設は、民間の知恵とノウハウを生かした 「施設運営計画」を策定するなど、大会後も都民・国 民の貴重な財産として末永く親しまれ、有効活用さ れるようにします。
- ・武蔵野の森総合スポーツ施設を整備し、ラグビーワールドカップ2019の会場となる東京スタジアムと 一体となった多摩地域のスポーツ拠点を形成します。
- ・既存スポーツ施設のバリアフリー化、地域スポーツ施設の整備支援など、新たな競技施設とその他のスポーツ施設のネットワークによりスポーツ都市東京の実現に向けた基盤整備を進めます。

大会時の施設イメージ 基本設計が完了した新規恒久3施設



オリンピックアクアティクスセンター



有明アリーナ



海の森水上競技場

※2015年10月時点におけるパース

大会後の 利用イメージ

- ●競技スポーツの拠点
 ●スポーツ利用・観戦
- ●文化・レジャー・イベント等の多目的な活用
- ●公園・自然環境・レジャースポット等の施設周辺との連携
- ●青少年教育の場としても活用





選手村を誰もがあこがれ住んでみたいと思えるまちにします



○都心に近接し、海が前面に開かれ緑につつまれた空間において、 多様な人々が交流するまちが大会後に誕生

- ・多様な人々が集い、快適に暮らせる、活気あふれるまちに必要な機能 を導入します。
- ・道路や商業棟などにおけるサイン デザインの統一、バリアフリー対応 により誰もが移動しやすい環境を 整備します。
- ・地域の持続的な発展に向けて、まちをつくり、人を育てるコミュニティの形成を目指します。

- ・緑が連続し、道路、住宅、水辺空間 等が統一された、海に開かれた街 並みを形成します。
- ・人にも環境にもやさしい交通手段 を導入し、エコな移動が可能なまち を実現します。
- ・水素ステーションの設置、次世代型水素燃料電池の導入の検討を進め、日本初の本格的な水素供給システムを実現し、水素社会の実現に向けたモデルとします。
- ・燃料電池と蓄電池の設置等により 分譲住宅棟の電力自給率を高め、 災害時にも自立できるまちを実現 します。
- ・エネルギーマネジメントの導入や 太陽光発電の設置などによりエコ なまちにします。





太陽光

蓄電池



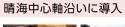
パイプライン ステーション (イメージ)

【水素供給システム】

商業棟に導入 商業施設 クリニックモール スポーツ施設 英語関連施設









保育所 カフェ





サービス アパートメント (家具付き住宅)



SOHO

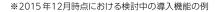


シェアハウス



サービス付き 高齢者向け住宅・ 有料老人ホーム





ベイエリアの交通利便性を向上させ、 アクセスを強化します



2020年に向けた臨海部の交通網の整備



※選手村のBRTルートについては、大会後の開発状況にあわせて運行する

○交通需要に柔軟に対応するため、 BRTを導入するなど、交通網を整備

臨海部の交通需要に対応するため、環状2号線を中心に都心と臨海副都心とを結ぶBRTを導入します。また、開発状況にあわせ迅速かつ柔軟に都営バス等のバス路線を拡充します。

○シェアサイクルの拡充、 自転車推奨ルート整備により 自転車利用環境を整備

サイクルステーション設置に対する支援、区 や公共交通機関等との連携など、シェアサイ クルを拡充するとともに、自転車推奨ルート の着実な整備を進め、ベイエリアの回遊性を 高めます。

○船着場の整備等により舟運の活用を 推進

選手村、豊洲地区の船着場の整備等とともに、羽田空港と都心・臨海部を結ぶ航路の充実に向けた社会実験の実施などにより水上交通の充実を図ります。あわせて船着場周辺の緑地整備、レストラン等の誘致などにより水辺空間のにぎわいを創出します。

大会に向けたバリアフリー化と 安全・安心への取組を推進します



○競技会場周辺等のバリアフリー化、 アクセシビリティ・ガイドライン*の策定等、 大会に向けてバリアフリー化を推進

バリアフリー化の推進 大会に向けたバリアフリー化の推進 ● 都道のバリアフリー化 ● 鉄道駅のホームドア整備の促進 ● 無電柱化の推進 大会後も引続き推進 大会を契機にバリアフリーが 東京全体に浸透 ユニバーサルデザインの まちづくりにつなげていく アクセシビリティ・ガイドラインの策定 競技施設等のバリアフリー化を推進 ● 東京都の整備する各会場への適用 ● アクセス経路等の着実な整備に向けた普及・啓発

- ・競技会場周辺等の都道、都立公園、鉄道駅のバリアフリー化とともに都道等の無電柱化を推進します。
- ・アクセシビリティ・ガイドラインを組織委員会、関係 機関とともに策定し、東京都の競技施設整備に反映 します。また、アクセス経路等の整備を促進します。
- ・そして、アクセシビリティ・ガイドラインの考え方を ユニバーサルデザインのまちづくりの一層の推進 につなげていきます。
- *アクセシビリティ・ガイドライン:正式名称は「Tokyo2020アクセシビリティ・ガイドライン」。組織委員会が国際パラリンピック委員会の求めに応じて策定する、ハード・ソフト両面のバリアフリー化の推進を目的とする東京2020大会用のガイドライン

○官民一体となった危機管理体制の構築



- ・東京2020大会に訪れる全ての人の安全・安心を確保するため、リスクを洗い出し、各種事態を想定した対処要領の策定と実践的な訓練を実施します。
- ・国や組織委員会等の関係機関との連携強化や役割 分担の明確化により、官民一体となった安全・安心 を担う危機管理体制を構築します。
- ・こうした大会に向けた安全・安心の 取組を世界に発信するとともに、誰 もが安心して暮らせる大会後の東京 のまちづくりにつなげていきます。







大会を機に、 スポーツが日常生活にとけ込み、 誰もがいきいきと豊かに暮らせる 東京を実現します

1 コラボレーションでスポーツを推進します

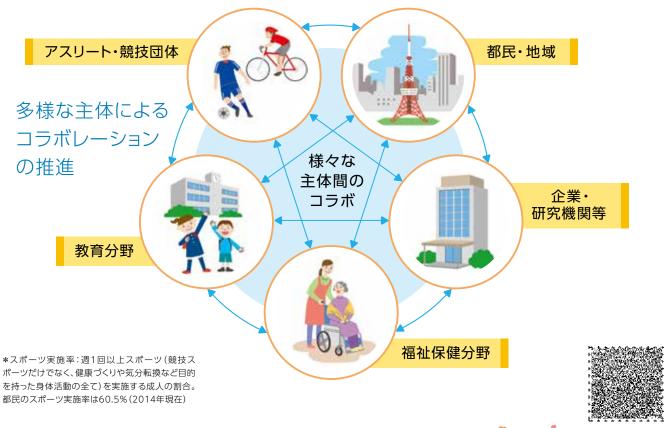
○アスリートが活躍できる環境を整備

アスリートや競技団体と連携し、国際的な大会等で活躍できるアスリートの発掘・育成・強化を図ります。また、アスリートが競技活動に集中できるよう就職に向けた支援を行うなど、アスリートが活躍できる環境を整備していきます。

○スポーツ実施率*70%の実現

地域スポーツクラブの設置拡大と活動への支援により、地域におけるスポーツ活動を活性化させるとともに、スポーツ推進企業認定制度により、働き盛り世代のスポーツを促進します。

また、福祉保健分野と連携して生活習慣病予防や 介護予防に寄与する運動・身体活動の普及を図り ます。



2 東京全体に「スポーツフィールド」を創出します

○スポーツ施設、学校をはじめ、東京の資源を最大限に活用し、身近な場所でスポーツを楽しめる 環境を整備



道路・遊歩道・公園などを ウォーキング・ランニング・ サイクリングコースとしても活用



学校体育施設をさらに活用

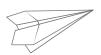


東京2020大会競技会場や 既存スポーツ施設の活用



東京の自然環境を生かしたウォータースポーツの普及

TOKYO





職場や駅の階段等を活用した、 日常生活における 健康づくりの推進

3 障害者がスポーツに親しむための環境を整備します



○障害者スポーツの情報発信により、 パラリンピック・ムーブメントを創出

パラリンピック競技の面白さや選手の活躍をメディアで積極的に発信するとともに、パラリンピアン等の協力を得て、様々な場面で障害者スポーツとパラリンピックのPRを行います。

○障害者スポーツの場を整備

都立障害者スポーツセンターを改修して、機能や利便性の向上を図ります。また、今後の障害者スポーツ振興を見据え、既存施設の活用を含め、広域的な観点からの場の充実・強化を検討していきます。さらに、地域における障害者スポーツの拠点の一つとして、都立特別支援学校の活用を進めます。



○ 障害者スポーツ選手の発掘・育成

選手の発掘・育成に向け、競技団体との連携を強化し、東京ゆかりの選手の競技力向上に向けた支援を行います。また、国際大会出場に向けた強化練習会や合宿を実施する競技団体を支援するなど、競技団体や選手のニーズに応じた支援を実施します。さらに、パラリンピック出場等を目指す選手の切磋琢磨の場として、都内でのIPC (国際パラリンピック委員会)公認大会を増やしていきます。

○障害者スポーツ振興基金(仮称)の創設

東京2020大会に向け障害者スポーツの振興を加速させ、大会後のレガシーを創出していくため、障害者スポーツ振興基金(仮称)を創設します。







1 都民の皆様とともに 大会を盛り上げていきます



○様々なプログラムを各地で展開

オリンピック・パラリンピックの魅力を体感できるライブサイト*やフラッグツアー*、大会開催までのカウントダウンイベントや競技会場の見学ツアー、マスコット・公式ソング等の発表イベントなど、都民の皆様に参加していただける多種多様なプログラムを組織委員会等と連携し、都内をはじめ各地で展開していきます。

○開催都市としての雰囲気を醸成

大会エンブレム等を用いたシティドレッシング*などにより、東京の街全体で、東京を訪れる人々へのおもてなしの雰囲気を創出していきます。また、聖火リレーに多くの都民・地域が関われるようにして、大会の感動を多くの人々と分かち合います。



オリンピックカウントダウンイベント「みんなのTokyo 2020 5 Years to Go!!」

*ライブサイト:オリンピック・パラリンピック競技大会を生中継する臨場感あふれる大画面を設置するとともに、ステージイベントやパラリンピック競技体験など大会の興奮と感動を楽しむことのできるイベント

*フラッグツアー:リオデジャネイロ2016大会閉会式で引き継いだオリンピックフラッグ・パラリンピックフラッグを各地でお披露日するイベント

*シティドレッシング:オリンピック・パラリンピック開催都市全体を一貫性のある外観で装飾すること









○都内全域で都民参加の機会を提供

都内各地でパラリンピック競技体験プログラム 「NO LIMITS CHALLENGE」を展開するなど、身 近な地域から大会に参加し、ともに大会を盛り上げ る機会を東京全体で創出していきます。また、島しょ 地域に、オリンピアン・パラリンピアンを派遣するな ど、各地域のニーズに応じた取組を都内全域で行っ ていきます。

○身近な地域と連携した取組を推進

東京都と区市町村が連携してオール東京体制で取 組を進められるよう、事前キャンプ誘致に関する情 報提供など、情報提供・相談体制を充実させます。 また、地域の取組を支援し、身近な場所でオリン ピック・パラリンピックの魅力を体感できる機会や、 スポーツに親しむ機会、東京を訪れる外国人旅行者 へのおもてなしを学ぶ機会を提供していきます。



3

大会を支えるボランティアを育成するとともに、 ボランティア文化の定着を目指します



○大会を支えるボランティアの育成

「東京都ボランティア活動推進協議会」を通じて、企業、町会、学校等と連携するとともに、大会を支えるボランティアの育成を進めます。また、おもてなし東京(観光ボランティア)など、大会時の都市ボランティアの核として活躍する人材の育成や、障害のある人もない人もボランティアに参加しやすい環境づくりを進めていきます。さらに、ラグビーワールドカップ2019に向けて育成したボランティアを、東京2020大会の大会関連ボランティア*につなげていきます。

○ ボランティア文化の定着に向けた 取組を推進

ボランティア情報の集約・発信や、ボランティアコーディネーターの充実などボランティア活動に参加しやすい環境を整備し、ボランティア活動への参加気運を高めます。また、企業、学校などの優れた取組を表彰するなど、インセンティブ付与等により、ボランティア文化の定着に向けた取組を推進し、2024年度の都民のボランティア行動者率*40%の達成につなげていきます。



- *大会関連ボランティア: 東京2020大会での、競 技運営など大会運営に従 事する大会ボランティア と、観戦・観光客への交 通・観光案内に従事する 都市ボランティアを合わ せた総称
- *ボランティア行動者率: 過去1年間に、報酬を目 的とせず、自分の労力・技 術・時間を提供して地域 社会や個人・団体の福祉 増進のための活動を行っ た10歳以上の人の割合







1 史上最高の文化プログラムを展開します



○リーディングプロジェクトを推進

「東京キャラバン*」、「障害者アートプログラム」、「伝統文化芸能体験プログラム」など、文化プログラムを先導するリーディングプロジェクトを各地で展開していきます。

○これまでにない先進的な文化プログラムを展開 都市のあらゆる空間を活用するとともに、多彩な芸術文 化を、高齢者、障害者等のあらゆる人々が日常生活の中 で実体験できるプログラムを実施していきます。

*東京キャラバン:多種多様なアーティストや芸術が集い、屋外等で様々なパフォーマンスを繰り広げる新しい形の文化発信









2 あらゆる人が芸術文化に触れることができる 環境を整備します



○アール・ブリュット*の普及推進

自治体、大学、福祉施設、NPO等の地域の関係者と連携して、都立文化施設等でのアール・ブリュット普及推進や、制作・交流・展示のための拠点の形成を進めます。

○子供や青少年が芸術文化に主体的に 関わる場や機会の創出

学校、児童館、公民館等の地域の場を使った芸術文化の体験機会や、都立文化施設において子供たちを対象としたワークショップを展開していきます。

○芸術文化を通じて社会課題に向き合う 活動を支援

障害者や高齢者等の芸術文化活動のための環境整備 などに取り組むアートNPO等を支援していきます。

○文化施設の機能を向上

バリアフリー化や多言語対応、開館時間延長をはじめとする来館者サービスの向上や、ポータルサイトを活用した展覧会や公演情報の集約、発信を推進します。



*アール・ブリュット:「美術教育を受けていない人などが、既成の表現法にとらわれず自由に制作した作品」をいう。狭義には障害者の作品や芸術文化を指す

3

東京の芸術文化の魅力を 世界に発信します



○多彩な文化拠点の魅力を向上

芸術文化資源の集積を一層推進して、地域の個性 を生かした文化拠点を都内各地に形成し、地域活性 化策や観光施策とも連携した取組を進めます。

○国際的な発信・交流を強化

アーティスト・イン・レジデンス*による国内外のアーティスト受入や、海外の芸術文化団体・文化施設と連携した展覧会の開催、国際的な芸術文化カンファレンスの開催支援など、海外との文化交流を進めます。

○最先端技術と芸術文化の融合

コンペティションの実施など、最先端技術を活用した新たな芸術表現の発表の場を充実していきます。

○芸術文化を支える人材の育成

若手芸術家を対象とした展覧会開催や民間の顕彰事業との連携などにより、世界を舞台に活躍できる芸術家育成を支援します。また、キュレーター*やアートディレクターなど芸術文化を支える人材育成を推進し、市場創出・販路拡大にもつなげていきます。

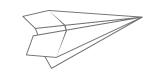


*アーティスト・イン・レジデンス: 若手芸術家等を一定期間招へいし、創作機会の場の提供や様々なジャンルの芸術家同士の交流などを支援する事業 *キュレーター: 美術館や博物館において、収集資料に関する調査研究や、展覧会の企画等を行う人のこと











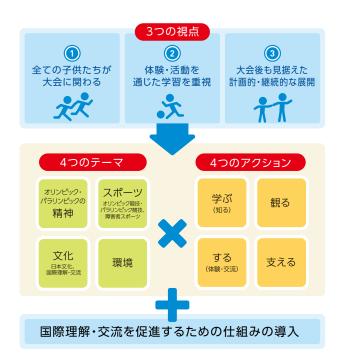
オリンピック・ パラリンピック教育を 通じた人材育成と、 多様性を尊重する 共生社会づくりを 進めます

中中 旅

■ 未来を担う人材を育て、共生社会を実現します

○オリンピック・パラリンピック教育の展開

「オリンピック・パラリンピック精神」にオリンピックムーブメントの3本柱(スポーツ、文化、環境)を加えた4つのテーマと4つのアクション(学ぶ、観る、する、支える)を組み合わせた多様なプログラムを都内全ての学校で展開していきます。



○多様性を尊重する意識と国際感覚の醸成

共生社会の実現に向けて、教育を通じた障害者への 理解促進を図り、相手を思いやる態度や共助の心な ど、ボランティアマインドを醸成していきます。

また、グローバル社会の中で活躍できる国際的な人材を育成するため、異文化理解と国際交流を推進し、英語力向上や日本人としての自覚と誇りを涵養する教育を展開します。













2 外国人が参加・活躍できる多文化共生社会を実現します

参加型・活躍型

多文化共生

社会の実現

東京で活躍する 外国人をサポート

東京へのビジネス展開を考えている外資 系企業のビジネスパーソンなどに対し、東 京における生活・ルールなどを紹介する ことにより、東京への進出や、生活のス タートをサポートしていきます。 東京で働く外国人や その家族が東京で安心・快適に 生活するためのサポート

生活情報や防災情報を多言語で一元的に 提供することにより、安心して生活できる 環境を整備します。

グローバル都市に ふさわしい意識を 醸成するための取組を推進

民間団体等と連携し、新たな交流の場を設け、日本人と外国人の交流を深めていきます。また、人権尊重の意識を醸成するため、大規模啓発キャンペーンを実施するとともに、啓発拠点を強化し一層の情報発信を行います。

様々な機関や団体と連携し、 外国人を支援

区市町村等と連携した外国人への生活サポートを推進します。



3

障害のある人もない人もお互いを尊重し、 支えあう共生社会を実現します



○すべての人にやさしいユニバーサルデザインのまちづくりを推進

鉄道駅・道路・建物等のバリアフリー化を推進するとともに、アクセシビリティ・ガイドラインの考え方を、すべての人にやさしいユニバーサルデザインの視点にたった福祉のまちづくりの一層の推進につなげます。

○心のバリアフリー・情報バリアフリーを推進

外国の手話も含めた手話のできる都民を育成するとともに、遠隔手話などICTを活用したコミュニケーションツールの普及促進、様々な広報媒体等を活用した普及啓発、心のバリアフリーに向けた教育の推進などを通じて、心のバリアフリー・情報バリアフリーを推進していきます。

○障害者のスポーツ・文化芸術活動を振興

障害者スポーツの振興を図るため、普及啓発や気運醸成に取り組みます。また、障害者の文化芸術活動を支援するため、障害者美術展や「障害者アートプログラム」を実施していきます。















環境に配慮した持続可能な 大会を通じて、豊かな都市環境を 次世代に引き継いでいきます

1 水素社会の実現に向けた取組を推進します

○水素エネルギーは環境にやさしい次世代のエネルギー

環境負荷の低減

利用段階でCO2は 排出されません。



エネルギー供給源の 多様化

水や木質バイオマスなど、 様々な資源からつくるこ とができます。

水素社会 の実現

産業の裾野も広く 経済波及効果が高い

水素関連産業は日本の 高い技術力が集約され ており、高い経済波及効 果があります。



非常時対応の視点からも有効



燃料電池自動車等は、非常 用電源としてエネルギー を供給することができま す。



○水素エネルギーの普及

水素供給システムの整備などにより選手村を水素 社会の実現に向けたモデルとします。また、水素ス テーション整備や燃料電池自動車・バスの普及な ど、水素社会の実現に向けた取組を推進します。







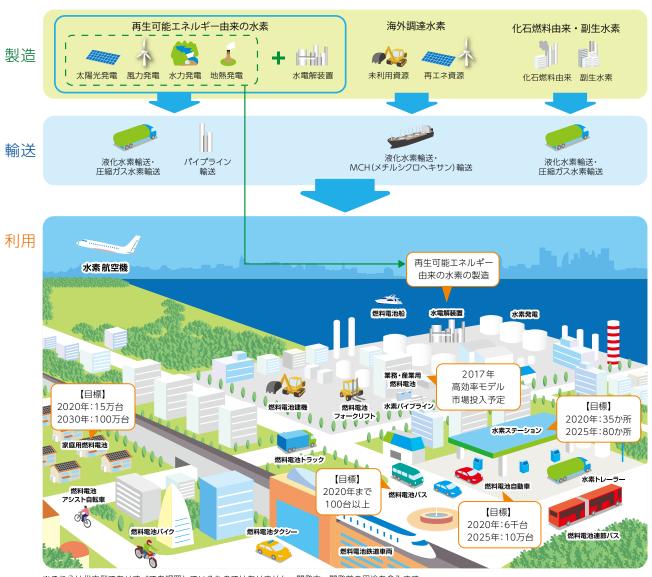






未来の水素社会イメージ

再生可能エネルギーから製造されるCO2フリー水素の割合が増加するなど、環境にやさしい水素社会が実現



※これらは代表例でありすべてを網羅しているものではありません。開発中、開発前の用途を含みます

2 持続可能な都市の実現のための環境対策を推進します

○大会施設等でのエネルギー利用の効率化

太陽光発電や地中熱利用ヒートポンプなどを大会施設等で積極的に導入し、エネルギー利用の効率化・最適化を図ります。また、電気自動車などの次世代自動車の導入を支援します。

○大会に向けた暑さ対策と、快適な都市環境の実現

大会に向けて、遮熱性舗装等の整備やクールスポットの創出を推進し、都市の熱環境を改善します。また、競技施設周辺等で生態系に配慮するなどの、質の高い緑を充実させます。

○持続可能な資源循環型都市の実現

大会に向けて食品ロスの削減を進めるなど、廃棄物の3R(リデュース、リユース、リサイクル)を徹底します。 また、再生資材の利用を推進します。



ドライ型ミストによる暑さ対策(東京スタジアム)















■世界一のビジネス都市東京を実現します



○グローバル社会に対応した国際ビジネス環境の整備

大会開催都市としての注目の高まりを生かし、国際ビジネス拠点のスピーディーな整備や東京国際金融センターの実現、外国企業等が迅速に開業できる環境の創出、外国人が快適に生活・滞在できる言葉のバリアフリーに向けた取組などを推進し、世界から資本・人材・情報が集まる世界一のビジネス都市東京を実現します。

2 東京を世界有数の観光都市にします



○「東京ブランド」を世界にPR

ロゴ・キャッチコピー「&TOKYO」や東京ブランドアンバサダーを活用し、「東京ブランド」を世界に広くPRします。また、都民や民間事業者とブランドコンセプトを共有し、東京に対する誇りや愛着をもって外国人旅行者を受け入れる気運を醸成します。

【 TOKYO

○日本各地と連携した外国人旅行者の誘致を推進

東京と日本各地が連携した観光ルートの設定や、他の自治体と連携した海外プロモーションなど、広域的な 外国人旅行者誘致を推進します。また、ウェブサイトを通じて、全国の多様な魅力を外国人旅行者に向けて発 信していきます。















○外国人旅行者が快適に滞在できる環境整備とおもてなし

東京を訪れる外国人旅行者がまち歩きを楽しめるよう、歩行者用観光案内標識の整備や無料Wi-Fiサービスへの接続環境の向上などの取組を進めていきます。また、近代日本最初の迎賓施設である浜離宮恩賜庭園の「延遼館」等を復元整備し、国内外のお客様をおもてなしする迎賓の場としても活用していきます。

○多摩・島しょ地域における観光振興を推進

民間事業者の力を活用し、外国人旅行者の興味を引く観光ルートの開発を支援します。また、多様なメディアを通じて、多摩・島しょの魅力や楽しみ方を国内外に広く発信していきます。

東京のみならず日本全国に幅広く経済効果を 波及させます



○中小企業の受注機会を拡大

大会を契機に生み出される様々なビジネス情報を提供し、全国の中小企業も活用できるポータルサイトを構築して、大会に関連したビジネスチャンスの拡大に取り組みます。また、大手企業の開発ニーズと中小企業の製品・サービスに関する情報等を相互に発信し、ビジネスのマッチングを進めます。

○新たな技術・製品・サービスの創出と 世界への発信

医療・環境・ロボットなど成長分野への中小企業の参入を促すとともに、起業家やベンチャー企業への創業資金の提供や、官民一体となった創業支援環境の整備に取り組みます。また、大会で世界中の注目が集まる機会を生かし、中小企業の優れた技術・製品・サービスなど、東京の産業力を世界に向けて強力に発信していきます。



東京をはじめとする国内産食材等の魅力を 発信します



○大会時に東京・日本の食材等を活用

大会時の東京をはじめとする国内産の食材を利用した 食事の提供や、多摩産材など都内・国内産の木材や花 きなどの大会関連施設等での活用に向けて、取組を進 めます。また、大会を契機とする幅広い機会を生かし、 国内産農林水産物をPRして、食材等の魅力を発信して いきます。

○農林水産物の安定供給に向けた取組を推進

農林水産物の高付加価値化やブランド化を促進するとともに、多様な手法による担い手の育成や技術普及による担い手の確保に取り組みます。



5 様々な課題の解決に向けて テクノロジーを活用します



○東京・日本の高度なテクノロジーを世界に発信

先進的な水素エネルギー技術や、ITS技術、ICTを活用した自動翻訳技術、ロボットなど、大会を通じて東京・日本のテクノロジーを世界に発信し、水素社会や渋滞のない東京の実現、超高齢社会への対応などに生かしていきます。















被災地との絆を 次代に引き継ぎ、 大会を通じて 世界の人々に 感謝を伝えます



スポーツの力で被災地に元気を届け、 復興へ歩む姿を世界に発信します



○スポーツの力で被災地に 元気を届ける

被災地と東京を結ぶ「未来(あした) への道1000km縦断リレー l やアス リート派遣など、スポーツによる交流 を通じて被災地に元気を届けます。 また、被災県において大型スクリー ンでの競技観戦や各種イベントを実 施するライブサイトを設置し、大会 の興奮と感動を届けます。

○力強く復興へ歩む姿を 世界に発信

メダリストと被災地の子供たちとの 交流など、力強く復興へ歩む被災地 の姿を継続的に映像に記録し、国際 スポーツ大会など、様々な機会を通 じて世界に発信していきます。

また、リオデジャネイロ大会終了後 のフラッグツアーを被災地でも実施 し、復興を後押しするとともに、その 様子を世界に紹介していきます。



未来(あした)への道 1000km縦断リレー

被災地を 元気づけ 復興を後押し



アスリート派遣事業

復興の軌跡を 世界へ発信



継続的な映像の記録(イメージ)













2 早期復興に向けて被災地を支援します ★★★★★

○被災地の復興を支援

1日も早い復興の実現に向け、インフラ整備などの復興事業が高水準で実施されることが見込まれる中、被災県への東京都職員の派遣を継続して被災地を支援していきます。

○風評・風化に対する取組

福島県産品の販売と観光PRを行う「ふくしま⇔東京キャンペーン」を展開するほか、生鮮食料品を扱う卸売市場関係者等を対象とした研修会を被災地で実施するなど、風評被害の払拭のための取組を進めます。また、被災地の震災時の状況や復興の状況を伝え、支援の継続を呼びかけるイベントを実施するなど、震災の記憶を風化させないようにします。



コンクリート舗装工 立会(被災地派遣職員)





住まいの復興状況:建設が進む災害公営住宅

○文化・教育を通じた被災地との交流

NPO等と連携したアートプログラムなど被災者の参加交流型イベントや「東京キャラバン」を展開するとともに、東京都が推進するオリンピック・パラリンピック教育において、被災地と連携した取組を進めていきます。



芸術文化を活用した被災地支援事業(福島県)

















東京2020大会までの主な関連行事

年度	2016	2017	
項目	リオ大会	平昌大会	
大会開催気運の醸成	ライブサイト ジャパンハウス フラッグハンド オーバー フラッグツアー カウントダウンイベント NO LIMITS CHALLENGE(パラリンピッシティドレッシング 都庁舎等への装飾	ライブサイト 3年前 1000日前 ク競技体験プログラム)を都内各地で開催	
ボランティア	東京2020大会都市ボラ	ンティア計画策定	
文化	リーディング プロジェクト 文化プログラムの展開		
教育	オリンピック・パラリンピック教育の展開		
被災地との交流	未来(あした)への道1000km縦断リレー 文化・教育を通じた交流		
大会施設の整備	新規恒久施設整備 武蔵野の森総合スポーツ施設整備 選手村(宿泊棟等)整備		

2018	2019	2020	
2年前	ラグビー ワールド カップ		東京2020 大会
	テストイベント		
	ファンゾーン		ライブサイト
2年前	500日前 1年前	100日前	パ 東 ラ 京
			シンのピック
	大規模展示物の掲出(レインボーブリッジ等)	大会競技会場等への装飾	ックォ
ボランティアリーダーの募集・選考	都市ボランティア募集・選考・育成		パラリンピック競技大会東京2020オリンピック・
			7 2



印刷物規格表第1類印刷番号28(1)

2020年に向けた東京都の取組

- 大会後のレガシーを見据えて-

平成28年1月 発行 平成28年6月 第3刷

[編集·発行]

東京都オリンピック・パラリンピック準備局

総合調整部調整課

〒163 - 8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号 電話 03(5320)7809 FAX 03(5388)1605 Eメール S8000225@section.metro.tokyo.jp

[印刷]

株式会社アイネット

〒104 - 0061 東京都中央区銀座七丁目16番21号 銀座木挽ビル1F電話 03(3549)5600(代表) FAX 03(3549)5550

本書は、「2020年に向けた東京都の取組 - 大会後のレガシーを見据えて-」(2015年12月発行 http://www.2020games.metro.tokyo.jp/taikaijyunbi/torikumi/legacy/index.html)の概要をまとめたものであり、文言について平易な表現等に変更している場合があります。



